

熊本地域医療センターだより

院長 杉田裕樹

令和5年(2023年)3月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

〒860-0811 熊本市中央区本荘5丁目16番10号

2023 4 月号 通算215号

熊本地域医療センター 理念

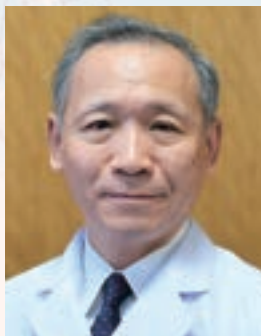
かかってよかった。
紹介してよかった。
働いてよかった。
そんな病院をめざします。

contents

新年度を迎えて.....	P1
わかりやすい部門紹介 ~手術室~	P2
退任挨拶.....	P2~3
人生初マラソン、「熊本城マラソン2023」に挑戦! ...	P3
「友だちの輪~Relayトーク 第22弾」	P4

新年度を迎えて

院長 すぎた ひろき
杉田 裕樹



今年の冬は日本列島に強い寒波が到来し、例年よりも厳しい寒さを感じる日が多く、春が待ち遠しく思えておりましたが、ようやく桜の季節となりました。今年は逆に平年よりも桜の開花が早いとのこと。冬の寒さも開花の時期に影響がある

のだそうです。自然界には知らないことが多いものだとつくづく思います。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)も今年1月は第8波といわれる猛威を振るっておりましたが、3月になり嘘のように激減しています。桜の花に少しに似ている気がします。新型コロナウイルスのいわゆる「波」が生じる理由については、ウイルスの変異と集団免疫等が関係しているかもしれませんが、はっきり分からないのが現状の様です。

新年度になり当センターは39名の新入職者を迎えました。毎年新卒の方が多いのですが、今年は学生時代の3年間をコロナ禍で過ごしてきた世代になります。コロナ禍の約3年間、ソーシャルディスタンスやマスク着用、また多くのイベントが開催できないなど人とのコミュニケーションの多くの機会が失われてしまいました。そのため、入職後コミュニケーションの点でやや心配な所があるのですが、その反面、忍耐力は高まっているのかもしれませんが、職場に早く馴染んで頂き、フレッシュなパワーを発揮して頂ける事を期待しています。

今年度当センターは病院建て替え計画の遂行や病院機能評価受審を予定しています。病院建て替えについては、計画では新病院設計を今年度内には終わらせることになっています。また病院機能

評価受審は今年9月に予定しており、各委員会等で着々と準備を進めているところです。これを機会に当センターにおける問題点や不十分な所を明らかにし改善したいと思っております。まずは院内組織図の変更を行いました。その中で大きく変更したのは地域医療連携室です。診療所や病院との連携の窓口をわかりやすくすること、連携室内部の結束力を高めて効率よく患者をサポートすることを目的としています。看護師、ソーシャルワーカー、事務員、がん相談員などの多職種で構成しております。令和元年から現在まで利用して頂き、好評を得ているベテラン看護師のホットライン(患者紹介電話相談)がありますが、これはそのまま地域医療連携室の窓口になります。検査紹介オーダーにつきましては、これまで同様地域医療連携室事務が担当いたします。また連携室内には、患者サポート担当者も居り、入院前から退院後までのサポートを行います。4月から動き出しますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

5月8日から新型コロナウイルスが5類感染症に移行することになっております。それに伴い当センターも当然対応を変化させる必要があります。この原稿を執筆している3月中旬において新型コロナウイルスの新規発生数、入院患者数や重症者数も激減した状態です。今後新型コロナウイルスは収束し、季節性インフルエンザの様になり、社会・生活はコロナ禍前のようなようになるのかもしれませんが、もしそうだとするとどのような過程をたどるのか予測することは難しいことです。いずれにしても早くそのようになってくれることを期待しております。

熊本地域医療センターはこれからも、皆様のお力になれますよう努力して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

わかりやすい 部門紹介

～手術室～

～周術期ケアの質向上のための手術室・HCU・5階北病棟との連携強化～

手術室師長 にしだ ちかこ
西田 千加子



今回は、手術室について紹介いたします。2月号の「熊本地域医療センターだより」におきまして岩橋師長が紹介しました周術期ケアの強化は、手術室のミッションと考え、常に先手！柔軟に即応できる手術室を目指すことを合い言葉にしております。

年間の手術症例は、ここ数年コロナ禍で減少しておりましたが今年度は昨年度を上回る症例数まで回復してきました。年々、後期高齢者の手術症例は増え80～90歳代の方の手術も珍しくはありません。症例数の上位は、県下でもトップクラスの数である腹腔鏡下胆嚢摘出術になりますが、悪性腫瘍手術の結腸手術・胃切除術・直腸切除術・膵腫瘍切除術など長時間のハイリスク手術も外科医・麻酔科医・手術室看護師・臨床工学士・看護補助者がONE TEAMで取り組んでおります。また、昨年緊急症例率は約19%で、絞扼性イレウス・汎発性腹膜炎など緊急度の高い症例を昼夜問わず、術中術後管理をHCUと連携して取り組んでおります。

外科病棟との連携では、患者さんファーストで「この病院で手術してよかった」に繋がり、病院理念の「かかってよかった」と思ってもらえる手術

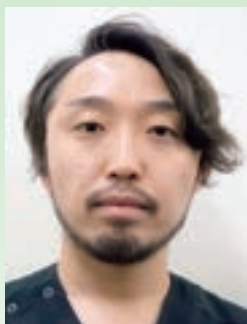
室・HCU・5階北病棟がONE TEAMで取り組みをしております。手術室看護師として、術前に患者さんの身体的精神的準備を100%にして手術に臨めるために術前訪問をおこない病棟看護師と情報を共有しています。術中は専門的スキルを個々が発揮できるように努め、術後はベッドサイドへの訪問を積極的におこない術前術中のケアについて患者さんからの声を直接聴いて看護を振り返っています。また、手術室スタッフ全員が年間一つの症例をまとめ、看護の振り返りの機会を設けています。患者さんの声に耳を傾け、患者さんの困りごとに手術室看護師としてできることをしっかり実践していくことが役割であると考え日々取り組んでおります。

この3年間コロナ禍において、COVID-19感染者の手術を想定しいつでも対応できるようにシミュレーションを重ねてきました。その日は突然やってきましたが、大きなトラブルもなく各々がしっかり役割を果たし無事に終えることができました。幸い患者さんも順調に回復され安堵しています。現在は、この経験を元に慌てずいつも通りにと感染者の緊急オペに対応しています。

これからも手術室は、「この病院で手術してよかった」と思ってもらえる最強のHCU・外科病棟との連携ができるワンチームを目指していきたいと思います。

退任挨拶

呼吸器内科 さかもと かずひこ
坂本 一比古



2019年4月より4年間大変お世話になりました。

赴任1年目で呼吸器内科専門医を取得し地域医療センターでの業務にも慣れてきた2020年初頭に新型コロナウイルス感染症が出現しました。当初は他人様の様に海外のニュースを眺めておりましたが、4月には今

でも忘れられない当院1人目の確定例を皮切りにまだ病態もわからず治療法も手探りで新規感染症

に対する戦いが始まりました。医者人生で一番肉体的・精神的に疲弊したここ数年の幾多の大波は二度と経験したいものではありませんが、振り返れば地域医療センタースタッフ一同で乗り越えた貴重な経験であったようにも思います。とはいえwithコロナの時代、さらなる大波が訪れないことを祈るばかりです。

今後は実家の医院を継承し、より地域医療に貢献出来るよう尽力していく所存です。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。本当にありがとうございました。

人生初マラソン、「熊本城マラソン2023」に挑戦！

ランナーズクラブ かわたに つよし
河谷 剛



2年前からランニングを始め、3月のセンターだよりでランナーズクラブの日高キャプテンが紹介された熊本中枢都市圏アプリ「げんき！アップくまもと」を通じ、獲得歩数の多さから当院のランナーズクラブに強制？入部となりました。

ランニングに関しては、姿勢やランニングフォームの改善、走力、心肺機能の増強を図り、月間100kmを2年間、暑い日も寒い日も黙々と走破してきました。こうなると、コロナ禍で3年振りの開催となる「熊本城マラソン2023」が気になってきます。意を決してエントリー、人生初となるマラソンですが、走るからには市民ランナーの最初の目標、サブ4（42.195kmを4時間以内に走りきる。サブは英語でSub、「下」を意味する。完走ランナーの上位25%。）の達成を目指し、3ヶ月前から特化した練習を開始しました。

2023.2.19本番当日、雨模様にも関わらず、国内でもトップクラスの応援といわれる42.195kmほ

ぼ止むことのない沿道の大応援、行き届いたスタッフ、ボランティアのサポートに助けられ、未踏の37km付近（今まで33kmまでしか走ったことがなかった）で疲労により前腿が上がらず失速しましたが、熊本城の最後の坂を声援と気力で踏ん張り、3時間56分35秒（大会公式グロスタイム）でなんとかサブ4を達成できました。大会運営に携われたスタッフ、ボランティアの方々、足元悪い中ずっと応援してくれた観客の皆様、本当に“感謝”の言葉しかありません。本当にありがとうございました！次回はサブ3.75を目標に！

ランニングは有酸素運動で健康はもちろん、日頃のストレス発散にもなります（←これ結構重要です）。皆様もランニング、興味ありませんか？



退任挨拶

たけの ひろし
消化器内科 竹野 洋司



3年間大変お世話になりました。消化器内科に入局して初めての関連病院勤務で至らない点が多々あったと思いますが、皆様のご指導のおかげでなんとかやってくる事が出来ました。

熊本地域医療センターで、とても充実した日々を送れたことに感謝しています。

4月からは山鹿での勤務することとなります。消化器内科の人数が少なく、さらに忙しくなるかもしれませんが、ここでの経験を生かして頑張っていこうと思います。ありがとうございました。

くろだ だいすけ
外科 黒田 大介



2020年4月から3年間、大変お世話になりました。人によっては長くは感じられないかもしれませんが、自身としては、1年を超えて勤めたのが初めてのことで、それゆえ多くの貴重な経験を得られました。

癌治療においては、関連診療科の先生方のお力を借りながら、集学的治療の戦略を練り、マネジメントを主体的にできる環境は、消化器外科医として理想的でした。

とりわけ手術においては、杉田院長、廣田先生

をはじめ外科の先生方に、多忙な中多くのご指導をいただき、腕を磨くことができました。

並行して、この3年間は、間違いなく世界史に記されるであろう、COVID-19の大流行と共にありましたが、刻一刻変化する状況に対する病院運営に携わる先生方の舵取り、それに従われたスタッフの皆様の一一致団結した取り組みで難局を乗り越えていった経験は、少なくとも個人的には大きな成功体験に参加させてもらえたと感じています。

来年度から熊本市市民病院へ赴任しますので、引き続きお世話になることも多くあると思います。今後とも宜しくお願い致します。

「友達の輪～Relay トーク 第22弾」

いとう 伊藤 清治
きよはる



川尻尾崎内科の尾崎徹先生よりご紹介頂きました、いとう内科クリニックの伊藤と申します。昨年7月に北区で開業致しましたが、勤務

としては本当に久しぶりの熊本市です。この地域医療センターにも以前勤務させて頂いており、その際は相良元院長はじめ、諸先生方に大変お世話になっておりました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。有難い事にその当時に在籍されていた先生方とは、現在も交流が続いており、紹介頂いた尾崎徹先生や、国府で開業された田中朋史先生とは特に親しくさせて頂いております。地域医療センターには今回の開業前より併設の検査センターに色々と助けて頂いてますし、診療開始後も、一時期はかなり遠いイメージがありましたが、実は北区の患者さん達も認知度高く、度々お世話になっています。当日紹介すべきか悩ましい患者さんも、敷居低く対応して下さり有難さが日増しに高まっています。出動協力医として時々、お邪魔させて頂いておりますが、これからも継続して参りたいと思います。さて、自分の人生の、多分一番の転換点となるであろう今回の開業について述べたいと思います。これまで消化器内科として勤務しておりましたが、元々家庭医志望にてその当時、自分の理想に近い診療をなさってる尾崎建先生のもと、10年以上研鑽して参り非常に多くの事をご指導頂きました。しかし、診療のみに専念できる環境は大変有難

かったのですが、年とともに逆にこのまま甘え続けて良いのかとの思いもあり、医者人生の最後は、勤務医では経験できない様々な事を経験し、冒険しようとした。思い切って50歳半ばでの開業の選択を致しました。どうせやるならと、全く縁のないところでの落下傘開業を致しましたが予想よりずっとずっと大変でした(もちろん現在も)。開業に至るまで、そして開業後の様々な事が全くこれまでタッチしてなかった事ばかりで、いかに自分が医療以外を知らなかった事、改めて痛感しました。また落下傘開業は内科は3年我慢しろと言われておりましたが、「えっ、そんなに?」と実は思っていました。しかし開業当初、本当に一日5人以下という日々が続き、すぐにその意味を理解しました。これで発熱外来がなかったらと思うとぞっとします。これまで周りの方々が開業なさってもあまりその大変さをピンと来てませんでした。今は実感持ってその大変さが分かるようになりました。その当時に理解していなかった自分が恥ずかしい限りです。この3月で開業9か月目に入りましたが、その中で、妻と一緒に開業した事でクリニックとしての幅が出来たのは幸いでしたし、スタッフが、患者が少ない中で、常に工夫をし続けてくれる事、本当に感謝に堪えません。まあ、借金まみれで、これからも色んな苦労があるかも知れませんが、自分のやりたい診療へ向かっての夢だけはあります。今回の友達の輪は今回の開業の準備の際に、一番お世話になったよしむらクリニック内科・糖尿病内科の吉村良平先生にお願いしました。実は小学校からの腐れ縁で、この開業は彼の協力が無ければ考えられない位に尽力してもらいました。どうぞ宜しくお願いします。

熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時/2023年4月24日(月) 19:00~20:00

形式/ハイブリッド方式 オンライン参加 or 会場参加
オンライン参加: ZOOM 会場参加: 2階多目的ルーム

申し込み方法/ kumamotochiiki@gmail.com (※1) まで (※1) 申し込みアドレス
メールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。(後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。)

※会場参加を希望される方は、事前にお申し込みください。
人数制限によりご案内できない場合がございます。
※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。



①症例報告

『急性膵炎に膵仮性嚢胞内仮性動脈瘤と十二指腸潰瘍を合併した一例(仮)』

消化器内科 柏田 彩圭 医師

②特別講演

『麻酔を受けられる患者さんの手引き: 超高齢者編』
CCO: その他

麻酔科 高群 博之 医師

熊本地域医療センター

■医師へ直接紹介される方はこちら
☎096-363-3311 (代表)

■何科に紹介するか迷っている場合はこちら
※ベテラン看護師が対応いたします!

(平日9:00~17:00) ☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)
☎096-366-1323

編集後記

Y 「生き返った」村神様。信じて託した栗山監督の采配。「筋書きのないドラマ」WBCは日本中を感動の渦に巻き込み「勇気」を与えてくれました。本号で熊本地域医療センターの「元気」を皆様にお届けできましたら幸いです。

K 4月より地域医療連携室が新体制になります。受診される患者さんには、かかってよかった。ご紹介いただく先生には紹介してよかった。もっと紹介したい!と思っただけのよう、舵取りの室長を中心に航海の旅が始まります。スタッフ一同、パワー全開、一丸となって頑張ってまいります。

H 新年度を迎えました。今年度は、コロナの5類感染症への移行などにより様々な影響がありそうな予感がします。早速、街中ではマスクを外している人も見受けられ、少しずつコロナ禍以前の生活が戻ってくるのかもかもしれません。